

プロスポーツ選手のセカンドキャリアについて
—デュアルキャリアに向けた行動阻害要因の調査—

政策科学科3年 川崎日菜子

1. 研究目的

華々しいプロスポーツ業界において、選手たちが現役選手として活躍するその先には、現役引退、そしてセカンドキャリアへのトランジションが必ず待ち受けている。プロスポーツ業界の中でもサッカーに焦点を当ててみると、主役である選手たちについて、望月・横山らは、「1999年に選手会が実施したアンケートでは、引退後の生活に不安を抱える選手が76%」との調査結果を示している[望月・横山, 2005:6]。また、高橋・重野らによると、「セカンドキャリア支援体制が整っている場合でも、最終的には選手がセカンドキャリアについて主体的に考えて行動することが重要であるが、実際には、セカンドキャリアに対するビジョンを描けていない」ことが指摘されている[高橋・重野, 2010:23]。

このように引退後の生活に不安を抱えながらも、セカンドキャリアのビジョンを描けていない選手が多い現状に対して、近年注目が集まってきているのが、デュアルキャリアという概念である。我々は、本プロジェクトを通して、デュアルキャリアに関連する、以下の2点の課題を明らかにすることを目標とする。

- ①「日本のプロサッカー業界における、デュアルキャリアの阻害要因の分析」
- ②「日本のプロサッカー業界における、これまでのデュアルキャリア支援と選手が求めるデュアルキャリア支援の調査、今後すべきデュアルキャリア支援の提案」

2. 結論

目標①における結論としては、先行研究から構築された、現役選手らのセカンドキャリアに向けた主体的な行動を阻害する要因の一つとして、セカンドキャリアについて考えること自体が選手の心理的負担であるのではないかという仮説はインタビュー調査から否定された。サンプル数が少ないため、デュアルキャリアの阻害要因を解明することはできなかったが、インタビュー調査とアンケート調査から、デュアルキャリアに取り組む上で重要となるのは、「セカンドキャリアの粒度」が高く、かつ、デュアルキャリアの概念を認知していることだと明らかになった。（※「セカンドキャリアの粒度」については報告書本文を参照のこと。）

目標②における結論としては、各クラブの不足しているリソースをJリーグが支援する形で、Jクラブが強制力を持って全ての選手に対して「デュアルキャリアのゼロ歩目」としてデュアルキャリアの概念、重要性を認知させ、Jリーグ、Jクラブ、そして民間団体という異なる主体がそれぞれの選手のセカンドキャリアに合わせた支援を行うべきであると考えられる。

3. 活動内容

2024年8月：研究対象であるJ2クラブの事務所にて、インタビュー調査を実施

2024年10月：研究対象であるJ2クラブの練習場にて、アンケート調査を実施